

鈴木メソッド幼稚園
研修会記録

第一回

1983.10.11～14

於 美ヶ原温泉.円庄. 主催 鈴木メソッド研究所

研修会の目的と日程

多くの若い先生方が実際に子供の前に立った時、学校で学んだ知識など、子供という大きな生命の前には絶望的なまでに僅かなものに過ぎないと感じられたと思う。

まして今、子供達を見直して新しい教育を打ち立てようとしている才能教育運動の園では、更により深刻な悩みをもっておられると思われる。各園の園長もまた実際に児童に日々接して保育をしている先生方に少しでも多く才能教育の本質を理解してほしいと熱望してやまない。

3泊4日の短い期間にこれ等の大きな望みを達成することの不可能なことは充分承知しているが、園の運営、経費等々よりこれ以上の期間を設けるのは難しいので、与えられた期間を最も有効に活用する為に、一つの旅館に合宿して次の日程で研修会を計画した。

日 程

10月11日

午後7時の開講式、続いての歓迎夕食会に間に合うよう各地から参集
その夜部屋別の懇親会をひらく。

10月12日

午前中は各園よりの研究発表と討議。

午後は「鈴木メソッドとは何か」という題で講義。

続いて、教材研究・実習。

その夜「鈴木メソッドの魅力について」パネルディスカッション。

10月13日

午前中は鈴木鎮一先生の講義。

続いて、先生を囲んで茶話会。

午後は市内見学。

その夜は、意見発表会、続いてこの研修会への反省、希望、感想等の発表。

10月14日

朝食後、閉講式。

続いて、白百合幼稚園見学。

午前11時 各方面へ向って解散。

一、研究発表

1 私たちの混合保育への歩み

光が丘幼稚園 戸 敷 亮 子

当園は、宮崎市近郊のベッドタウンの中央にあり、緑に囲まれ自然に恵まれた環境の中、広々とした運動場で裸足で元気一杯走り回る、明るいたくましい子供を育てたいと願い、「どの子も育つ、育て方一つ」の信念のもとに、①子どもらしい、きちんとした、ピリッとした子ども、②やろうとする、やり通す、できる、創造性豊かな子ども、③感動できる、手をさしのべあえる、たくましい子ども、という目標を掲げ、日々の保育に取り組んでいる。

現在3才児22名、4才児36名、5才児20名の計4クラス78名の園児がおり、年令別の指導を中心に活動している。4月からの活動を考えると、自由遊びにおいては、園庭、部屋の遊びとも、最初ひとり遊び、同年令の子供同士の遊びが多かったのが、だんだんに異年令の子が抵抗なく交わって遊べるようになり、初めは保育者に頼りきりだった年下の子が年長の子を頼り、年長の子は年下の子の世話をするのを喜ぶなど、変化が見られるようになった。意図的に計画した活動の中で、誕生会などは異年令の友達誕生を喜び一緒に祝うことができたが、水遊び、リズムなどは年少の子が異年令での活動経験が浅いため、年長の子に比べるとうまく交われないという問題点もあった。しかし、子供達は自由遊びや意図的な活動を通し、異年令の子供たちに刺激されながら、年長の子は小さい子の世話をすることで自信や思いやりが育ち、年下の子は遊びに年長の子が入ることによって活動も発達し、保育者から教えられなくても子供なりに次の発達段階への足がかりとなっているように思われる。この場合、保育者側もただ見守るだけでなく、年令別の発達段階をしっかりと把握しておかないと、適切な助言や指導ができない。又、子供たちのちょっとした行動、言葉にも目を向けて育てていく保育者になれるよう今後も努力していきたい。

2 混合保育の問題点と対策

白百合幼稚園 内 川 良 子

現在白百合幼稚園では、3才児29名、4才児64名、5才児47名の計140名を4クラス、35名ずつの縦割り方式で分け、5名の教諭、2名の講師が中心となって混合保育を行っている。領域別の活動、集中感覚訓練、習字、英語、体育などが主な保育内容である。

まず、混合保育の良さについて考えてみる時、すべてを通して言えることは、現在のように各家庭においてきょうだいの数が減少し、地域に子供集団が育ちにくい現状の中で、子供にきょうだい学習をさせ、異年令の子供の間に思いやりや尊敬の心を育てるという点において、混合保育は十分な効果があるということである。具体的に例をあげると、基本的な生活習慣については、年下の子が

年上の子の真似をしたり、反対に年上の子が年下の子を助ける、手伝うという繰り返しの中で、お互いに身についたものが一層確かなものとなる。年齢差のある子供同士の触れ合いの中で、協調する、助け合う、認め合うことが自然にできるようになる。年齢の枠をこえて遊ぶことができ、幅広い人間関係が持てるようになる。反復という学習については、教える側にとって指導が大変楽であり、2年間なり3年間の反復学習の中でどの子もより高い水準に達することができる。担任として一人一人の子の成長度を知ることができる。…などが混合保育の良さとして言えることである。

次に問題点について考えた時、現在白百合で一番大きな問題だと考えられることは、担任一人に対して一クラスの人数一きょうだいが多すぎることで、そのため特に4月5月の時点では混合の良さが十分に生かせない、担任の目が子供たち一人一人に十分行き届かないために適切な指導ができない、ということである。やはり理想的な混合保育をするなら、少人数でどの子にも目が行き届き、適切な指導、助言が十分できるような状態が望ましい。その他、具体的に問題点と対策について考えてみると、①年上の子が年下の子を過保護にしてしまうことがあるので、クラス全体で助けるとか手伝うという意味を確認し合い、子供によってはつき放すこと、自立などを指導していきたい。②年上の子の力が強く、年下の子の中には思うように自分を出し切れない子がいるので、年長児にはリーダーの意味をはっきり理解させ、年下の子には活動の中に年齢別の活動を取り入れたりすることで、自信、満足感を与えてやるようにしたい。③年度始めには、どうしても新入園の子に担任の注意が向けられてしまい、前からいた子に対し十分な指導ができない場合もあるので、担任はいつもクラス全体に気を配り、どの子にも平等に接し、活動内容も工夫してやりたい。④年長児の中にはリーダーの仕事に負担を感じ、そのためその子の生活に影響が出たりすることもあるので、あまり負担を対過ぎないようにし、担任が年長の子とも十分接する時間をとりたい。⑤活動によっては年長の子が飽きてしまう、意欲が出ないこともあるので、年齢別に少しずつでも差をつけた活動を取り入れ、年長の子にやる気を出させ満足感を持たせたい。⑥製作、絵画などの指導は、個人差が激しい分野だけに担任として非常にむずかしさを感じ、十分な指導が行えないこともあるので、時にはクラスの枠をはずして年齢別の指導をしたり、目標を子供たちの実態に即した柔軟で幅広いものにし、教材研究も十分行っていきたい。などがあげられる。しかし、どれも保育者の努力、工夫次第で良さに変えられるものであり、皆で話し合い、研究し合って少しずつでも改善していけるよう、今後も努力していきたいものである。白百合の場合は、教育的ねらいを持って積極的に混合保育を行っているのだから、私たちはもう一度指導の方法や教材について検討した上で、子供たちの発達について正しい理解を持ち、何よりも発達の理論、そして教育に対する態度や意識が、保育の形態や技術の前にあるということ踏まえた上で日々の保育に取り組んでいきたいと思う。自分が混合保育という素晴らしい保育を経験できることを誇りに思い、これからも皆で力を合わせてよりよい幼稚園づくりをめざしたいものである。

3 2才児保育の現状報告

湘南幼児学園 大和田 敬子

1. 保育カリキュラム

見る・聞く・話す・触るの感覚的なものを中心に英語・リトミックを取り入れた。

1日の保育の流れ・内容

10時集合——リトミック、今月の歌

11時——おやつ、行事に合わせてハサミ等の練習、数字を読む（5まで）、文字カード、言葉あそび、俳句の暗誦

午前中に降園

2. 1学期の状態と1年の経過

初めての経験なので、母親と一緒に保育にしたが、保育の言葉より母親の言葉がないと行動しないので、子供の名前を呼び言葉がけを盛んにしたが、母親から離すことが難しく、先生の存在が浮いてしまったような感じであった。

2学期になると大分落ち着いて先生の言うことも聞くようになってきたが、矢張り子供も先生も独立と依存の矛盾に悩み続けてきた。フラッシュカードによる数字と文字の読みを続けてきたが、大分慣れてきて、今度は何をするか子供の方から話すようになってきた。

3学期になるとかなり母離れができてきたので、子供は保育室の入り口で別れ、母親はマジックミラーの隣室から見ようとした。しかしこれは全部ではなく、どうしても離れられない子供もいた。

保育の内容としては、1年間に1から10までの数が唱えられ、5までの数の合成分解ができればと思っていた。文字は50音が一通り読め、言葉あそびができることを目標にした。子供達も自分から電車は3番線で乗るとか、5号棟に住んでいるとか、テレビのチャンネルのこと、自分の家の自動車や電話番号等を話してくれるようになり、興味を示すようになってきた。

3. 1年間の反省

反省してみると、まず母親の存在が大きな問題点であった。初めてのことであり、あまり子供たちが赤ちゃんばいので、母親と離すのは無理ではないかと考えたのが間違いであった。今年是最初から母親から離してきたので、母親を意識しなくなり、友だちともよく遊び、リトミック等も喜んでするようになった。早く自立することの大切さを感じた。

今まで私は早教育に対して、罪悪視してきた。レデネス説を固く信じてきた。無理をさせてはいけない。自然に育つのでなければいけないと思ってきた。

しかし、田中先生の「幼児、育て方一つ」やドーマン先生の「幼児は学びたがっている」という本などを読み、また実践をとおして早教育の大切さがわかってきた。

そしてこれを行うのに一番大切なのは、母親と教師との信頼関係が確立していなければならないということである。

4 1～2才児保育の教材と玩具

代官山教室 田中 恵子

代官山教室の内容

マタニティサロン 週1回 午後1時半より

母と子のサロン 週1回

0～1才児とお母さんのための教室 PM 10:00～11:30

1～2才児とお母さんのための教室 PM 10:00～11:00

幼稚園

2才児 週2回 PM 10:00～12:00

3才児 週3回 PM 10:00～12:00

教材を作り始めた理由

1～2才児の教材を考えた時、やはり3才児のものでは、発達段階がちがうために、あわないと思ひ、自分たちで作り始めた。

教材の与え方

1～2才児では、説明や命令では、使い方など理解できないため、母親と一緒に遊ぶことにより、使い方を覚えていく。教師は、教育的効果を期待して作ったが、一番は、子供が喜んで遊ぶということである。

教材の紹介

キャップボックス—調味料などのピンを箱に埋めこみ、いろいろの種のフタをして遊ぶ。

3組バット—大中小のステンレスのバットのフタに鍋用のつまみをつけ、つまみの色と同じ色で内面に水玉をつけ、色・大きさを見てフタをする。

ジャラジャラボトル—おしょうゆのポリ容器を2本口でくっつけ、中にビー玉、おはじきなどを入れる。

冷蔵庫—かべに冷蔵庫をはり、フタをあけると、野菜などが分類してくっついている。

シーソーボール—箱の中でボールをころがす。下においてもできるように、箱のまん中に棒をうちつける。

バズル—1～3ピースくらいで、とってをつけ、木のワクにはめる。

迷路あそび—木で立体的に迷路を作る。

ビーズ落とし—ビンのフタに穴をあけ、ビーズを落としていく。

ボール落とし—広口ビンのフタにちがう大きさの穴をあけ、大きさのあうボールを落とす。

数あわせパズル—円を左右同じに切り、数字、水玉、絵を書き、同じ数のものをあわせる。

クリップ—円盤形の台紙（その他の形）のクリップをとめる位置に、大小の物をとめる。

チークエプロン—エプロンの胸のポケットが幾重にもなっていて、ぼたん、ホックなどをはずしながらあけていくと、最後におもちゃなどが入っている。

かぼちゃ—布で作ったかぼちゃの一辺ごとがわかれていて、手を入れて中から種をひっぱり出してくる。

太さのちがうホースを色々な長さに切り、さしてつなぐ。太さのちがいと色のちがいを知らせてやると、簡単につなげる。

5 一茶の俳句と記憶力

松本幼児学園 西牧 伸子

1. 動機—記憶力養成教材として、毎年一茶の俳句を取り入れて来た。今回の研究では、「従来の耳で聞いて覚える方法に加え、目で見て楽しみながら、俳句に親しみ記憶していく事はできないか」と考え、鈴木先生が作られた一茶の俳句カルタを使って、研究してみた。

2. 研究内容—縦割り混合保育でカルタ・絵カード（カルタの大きくしたもの）・漢字カードを使い、指導した俳句をくりかえし、その上に新しい句を教えた。

①絵カードを使い、教師の立つ位置・声の大小等を配慮し、楽しみながら記憶するために、リズムや情景を作り、漢字や意味をわかり易く説明した。リズムや子供自身が体で覚えた句は、意味もよく理解でき覚えも速い。漢字についても、子供の生活に触れているものや繰返しの多いものが、理解し易かった。

②①を行なってみて、絵カードの漢字が小さく、理解度が浅かったので、漢字だけを抜き出して漢字カードを作り、絵カードを必ず併用し、又、カードを見せる速度・回数・タイミング・教師の位置に留意してやった。漢字を理解させるために、その漢字の反対語や構造・仲間集め等、俳句以外の遊びの中から理解させ、俳句に結びつけていく方法を取った結果、絵カード・漢字カード・俳句の三つが、結びついて覚えられた。

③今までに覚えた句を楽しみながら繰返し覚える様に、又、各自がどの位理解しているかを枚数や態度を見て判断しようと、覚えた俳句でカルタ取りを2つの方法で行なった。

(A)年長児全員が、一組のカルタで行なう。

(B)各自が、一組ずつカルタを持ち行なう。

その際、全員が「カルタを取れた」という喜び・自信・意欲を持たせると同時に、カルタ取りのルールをみんなで守っていく様、指導した結果、楽しく意欲的に行ない、ほとんどの子供が、カルタ全部を取ることができた。

3. ま と め — 子供が受け身になるのではなく、実際に経験した事や毎日の生活に触れている句に関しては、どの子も速く覚えた。又、園生活の中にも落書きをしたり、虫等を見て俳句を言ったり、「遠足は晴れてほしいな、うれしいな」という様に、身の回りにあった事や願いを俳句にしたりと以前の様に記憶するのみではなく、俳句に親しみ生活の一部となってきたという好ましい成果が見られた。さらに、視覚教材を併用する事により、カードを見て俳句が言えたり、句の一部や意味を開けば、その句を言う事ができたり、カルタの順番に言えたりと多面的に記憶された俳句がいかせるようになった。又、カードを使う事により、子供の意欲がより増し、「もっとやりたい」という子供の気持ちが、記憶力を増進させていく足がかりとなったのではないか。

今後は、この結果を参考にして、今回できなかった俳句の分解の分野での教材を作り、「記憶の俳句」をステップに、どの子も「創作の俳句」へと発展していき、やさしい豊かな心が、育ってくれる様に指導していきたい。

6 長さの棒

白百合幼児舎 高野敬子

大人たちが意識して教えることよりも、子供たちが無意識のうちに覚える概念があるのではないかと考え、「長さの棒」を使って算数教育をしてきました。「長さの棒」とは赤色で統一されている10本の木製の角棒からなる。角棒は10cmから100cmの長さまであり10cmずつ長くなっている。指導はグループ提示で行ない、マットなどを使って緊張感を持たせる。教師の模範提示の中で、持ち方運び方またぐ教材でないことを教える。第一段階（提示A）では最も長い棒をみつけだし、それぞれの棒を比較しながら最も短い棒までの段階づけをする。注意することはマットの端に棒をそろえてならべることである。子供の理解度を確かめるため、一番長い棒短い棒を取りだし「先生に長い棒をください」「これはなんですか」と質問したり、一番長い棒中間の棒一番短い棒を取り出し「この棒より長くその棒より短い棒はどれですか」「最も長い棒はどれですか」と子供に理解させる。提示Bでは段階づけられた棒の中から1本だけとり出し他の棒と比較させる。「これはどことどここの間にあったのかな」また、「どことどここの間がないのかな」と発見させる。提示Cは部屋の中に散らかした棒を長い棒から段階づけをする。見てわからない時は、他の棒と比較してみる。提示Dでは一番長い棒を基準にし、次に長い棒との長さの差を満す棒を探す。50cmの棒は内側の端

を軸として180度回転されると、一番長い棒と同じ長さであることがわかる。提示Aを完全に理解できないと次の段階で迷ってしまうので、その場合は初めからもう一度子供が理解するまで繰り返すことが大切である。「長さの棒」を使って子供に長い短い、一番長い短い、「これより長くそれより短い」など実際に手で触れていくなかで理解させていくため、教師が準備段階でよく理解してから子供に与えなければならない。

7 教材研究

1 マッチ棒あそび

白百合幼稚園 中田登志子

目的 小さなものを扱うことにより、指先の運動ができ、集中力の養成にもなる。

準備 各家庭に火柴の部分を取りとった物を40本位箱に入れ持ってきてもらう。

縦割りクラスの場合は、年令を混ぜて机を配置する。(上の子の所を見ながらできるように)

- 方法
1. 好きな形に並べて遊ぶ。
 2. 全部で線を作る。(縦・横・波・うずまき他)
 3. 2本、3本……という集合体として形を作る。
 4. 立体にしてつむ。(++ #他)

時間的には、20分くらいの中で、1から4の方法を組み合わせる。

集合体の形は、子供に考えさせながら、それをとりあげていくと良い。

この他に、自由遊びの時間に、友達のもの合わせ、床で大きな形を作ってみる。つめる限界までやってみるという活動もおもしろい。

子供の反応、子供は指先で小さいものを扱うことがあまりないため、とても喜んでいる。

立体でつむ場合、40本をつめるのは年長位で、年中で20本、年少で12本位である。

指導上注意すべき点、持続時間は20分としたが、子供が飽きるまでやったのでは逆効果で、もっとやりたいという所でやめ、次の日に期待を持たせながらやるのが大切である。個人差があるため、完成までの時間に差があるが、いつもできない子は、途中で切ってしまうのではなく、すべての子が成功感が味わえるようにすることも大切である。

立体につむ活動で、年長児は40本をほとんどがつむことができるが、中には、気の短かい子、神経質な子など、どうしてもできない子がいる。その時に、できた子をはめるのではなく、できない子には、こつを教えてあげたり、落ちついてできるようにしてやったりして、“できない”という気持ちを植えつけないように気をつけてやる。

ロ おり尺

白百合幼稚園 高田 演子

○ねらい 手先を動かし大脳を刺激し、同時に長さ大きさ形について覚え、集中力をつけ、創造力を豊かにする。

○指導項目と指導方法

1. 扱い方を知り使う時の約束を守る。

おり尺に無理な力を加えると折れて使えなくなるので、大切に扱う事を全体で約束する。

2. 一本の折り尺で形づくりをして遊ぶ。

子ども一人に一本の折り尺を配る。まず教師のつくる図形や数字を見て模倣する。初め少ない辺で構成されているもの（三角形 数字の1）から次第に多い辺で構成されているもの（六角形 星の形、数字の6）へと、難かしくし、時には子どもからの提案も取り入れ、楽しく形づくりをする。子どもの集中力の度合いを見て、あきら前にやめ、次回への期待を残させる。おり尺の扱い方が守られているかどうか見て、自由あそびの中でも、使用できるようにする。

3. 数本のおり尺で形づくりをして遊ぶ。

クラスの子供の数の倍のおり尺を用意し、広い場所で指導する。数本のおり尺を使うと今まで1本のおり尺ではできなかった形も作る事ができる事を話し、数本のおり尺で、何か作ってみようという気持ちにさせる。年長・年中児は友達と工夫し、遊びを広げていけるので、グループで折り尺を使っても良い事、他の友達に迷惑をかけない事なども全体で注意し約束する。遊びが停滞している時には、言葉がけをし、遊びに必要なだろう道具を考え、出しておく。

○子どもたちの反応と注意事項

全体指導よりも、自由あそびに取り入れており尺を使う時の方が子どもも生き生きとし、学ぶ事も多いと思われる。良い環境を教師がつくり、自然に子ども達が、遊びや友達関係を深めるように又、いつも子どもが「次回もやってみたい」気持ちをもつよう指導していく事が大切である。

ハ まちがいさがし

白百合幼稚園 上 條 佳志子

日常生活の中でその物に興味をもって理解する力をつけるために観察力を養う必要があり、「まちがいさがし」の教材をそのために使います。指導は子供たちが一番集中できる時間（朝会など）にすべての子がよく見える体型の中で行ないます。一枚の絵をよく見せてから、それを隠し次にそれとそっくりのような絵を見せて前の絵との違いを発見させます。子供たちはやり方がわかると自分でまちがいを捜そうと意欲的になり大声で発表します。しっかり手を上げてあてられたら答えるように約束したり、友達の発表にも注意して聞くように指導します。教材を作る段階では「まちがい」は4つぐらい入れ、年少児にもすぐにわかるもの、年中児は2つぐらい、年長児は全部わかるよう

な教材を作ります。同じ部分は正確にかくこと、子供に親しみやすい絵、わかりやすいなどに注意して教材作りをします。「まちがい」の例としてあったものがなくなる、物の数量の変化、物体の変化（太陽が雲になる）色の変化などがあります。実践の中で注意すべきことは、くり返し行なうことで絵の内容を覚えてしまい、一枚目を見ただけでもう二枚目もわかってしまうので、こまめに教材の入れかえをする必要があります。全体のなかで黙っている子がどれだけ理解しているかを把握することも大切です。発言が多い子少ない子も十分満足させ、大きな声で発言しようとする意欲を大切にしなければなりません。毎日のくり返しのなか、あきない程度の時間で次回に興味を持ち楽しみに待ったり、みんなの前で発表する喜びを感じさせることで、より集中して観察しようとするでしょう。子供たちが日常生活のなかで、身のまわりのことの変化に気づき、感動や好奇心疑問をいつも持っていられるようになってほしいと思います。

二、年少児の絵

白百合幼稚園 中 村 由子

〔ねらい〕年少児に絵画の基礎的な部分を指導する。わずかな人数の中で幼児本来ののびのびとした絵の描けるようにする。この研究会を機会にもう一度混合保育の中での年令別指導についてみつめなおす。

〔内容〕年少の年令別保育は、他の年長、年中児が英語のレッスンを受けている間、週1回4つのクラスを30分ごとに回り指導する（1クラス7～8名位）。

〔今迄の経過〕①折り紙の基本的な指導②絵の具に慣れる③おとも達の絵についてやってきた。

①の折り紙は正確に丁寧に折る事を重点に指導する。②は混合保育の時間でも扱っていてそれに合わせて重複させるように興味をふくらます形でやってきた。（ふき絵・デカルコマニーゆび絵・スタンプ押し・ボディペインティング等）③では、意図としてことばがけをする事により、今迄気づかなかった顔の形・表情を発見しながら絵の表現力を高める。結果として（今迄の絵を参考にしながら）繰り返し丁寧に指導する事により身につけている事がわかる。人数的に少ない中の指導に興味を持ちのびのびと描く事ができた。

〔年令別指導をして良かった事〕混合の中でやるのと比べ、一人一人にことばがけができ、基礎的な指導が一からゆっくりと教える事ができた。混合指導と年令別指導を平行してやる事により、混合の中においても自信をもって描く事ができるようになった。

〔混合保育指導の利点〕年長児が使い方などを教えてくれる。年令の高い子の絵をみながらできるので色の使い方もわかり水準の高い絵が描ける。イメージがわかりやすい。

〔研究発表をしてみて反省・感想〕もう一度、今迄の指導の仕方などを見直す事ができ自分自身の勉強になった。反省点では、一つ一つの保育に細かい反省をして来なかったのが、今後、指導を続けていくにあたり、もう一度みつめ直してみたいと思う。

二、講 義

1 鈴木メソッドとは何か

田 中 茂 樹

1. 幼児の能力は生れつきではない。

この大前提を先生方は本当に心から信じているだろうか。ここから出発しなければ鈴木メソッドが理解できる筈がない。私共が教師として一人一人の子供に接した時、この子はいくら努力しても生れつきだから仕方がないと諦めるか、いや何とか出来る筈だと子供を信じるか。それは大変な違いである。

どんな子供でも素晴らしい能力のある子供に育てあげられるかといわれると、私共の未熟の腕では不可能だと言わざるを得ないが、しかし普通の子供が出来る能力ぐらまでは、どんな子でも出来る、つまり落伍させないという自信と気迫を持たなければならない。

2. 教えると学ぶ

教えるとは教師側の立場で、学ぶとは児童側の立場からの言葉には違いないが、多くの先生方は教えたから学んだ筈だと勘違いしている人が案外多い。だから沢山の教材を次から次へと与えて自己満足をしているが、子供の方は消化不良を起こして何一つ学んでいない。鈴木先生が言われる教材を進めて落伍させ」とはこのことである。

学習したとはどういうことか。学者はいろいろむずかしい定義をつけるが、繰り返えし、繰り返えしてそのものが本当に身につく能力になった時、始めて学習されたのであって、単に知識として覚えただけでは真の学習にはならない。

人間は他の動物にくらべて大変未熟な状態で生まれてくる。従って生まれた後に環境から素晴らしい力でこれから生きるために学びとろうとする。それが生命力である。これは素晴らしい力で外界のあらゆるものを自然に吸収する。知らず知らずのうちに、いつの間にか覚えてしまう。言語等がその最も良い例である。この幼児の偉大な力に対して大人達は畏敬の心を持たなければならない。学習することは幼児にとって、とても楽しいことである。学習は眉をしかめて我慢しながらすることではない。従って当り前のことではあるが学習とは教えることではなく、子供が自分で意欲をもって覚え込むことである。

このことから、あることを学習させるには、まずそのことを好きにさせなければならない。面白くて自分から進んでやろうとすれば、集中する。集中すれば大変効果的に学習がすすむ。人間の脳は好きなことをする時は大いに活発になり発達するといわれている。

3. 生々発展の原理

(1) だれにでも出来る極めて簡単なことから始め、それを身につくまで繰り返えして能力をつくる。

(2) 次に少しレベルの高いものを与え(スモール・ステップ)で、前に練習したことを含めてまた繰り返えし練習する。こうして高みへ進めていくのが生々発展の原理である。

多くの先生方は初歩のところを軽くみて、一刻も早く次へ進めたがる。これが今までの指導の大変な間違いである。

4. 先生方に苦言を

毎日の保育を反省してみると、これ等の大前提や原理は何一つ生かされていないのではないか。自分のたてた計画に従って(中には計画もなく行きあたりばったりで)子供達を引きずり、言うことを聞かないといつてはヒステリーを起し、叱り疲れ、やがて諦める、毎日がこの繰り返いで、自分でもこれで良いとは思わないが、まあ仕方がない、こんなものだろうと思ったりしているのではないか。そこでこれから苦言を申しあげる。

(1) 全体の動きが見えない。――

運動会の練習などを見ていると、最初の整列がうまくいかないで、前の方へ行って小言を言っているうちに、後の方が乱れてくる。後へ行って小言をいっていると、真中がさわがしくなる。また真中へ行くと、前と後がさわいできりがない。こうして時間をくって肝心の競技の練習がいくらもなくなってしまふ。こういうことが他の保育でも沢山目につく。視野が狭くて、部分にこだわり、全体がいまどう動いているのかわからなくなっている。

(2) 言葉が多すぎる。

先生方はよく子供達に「お口にチャック」といわれるが、先生こそ「お口にチャック」して欲しい。まるで機関銃のようにボンボン子供達の頭の上へ言葉をまくしたてる。子供達はろくに聞いていないでおしゃべりする。大声を出す。益々しゃべる。もっと大声になる。もっとさわぐ。声をからして叫ぶ。という悪循環になってしまう。

(3) 欲ばりすぎる。

あれもこれも沢山の目標を欲ばって盛りこんで、結果は蚊蜂とらずで一つの目的も達成出来ない様子を見かける。目標はできるだけ絞り、それに向って全力をそそぐ。見た目だけが立派な目標をかかげて、自己満足にならないように注意しなければならない。

(4) 甘すぎてきびしさが無い。

子供達にやさしく、何から何まで細かく指図してよく面倒をみる先生。根は善人で、教師を天職と思ひ、子供達の為なら何事も労を惜しまないタイプの先生。子供達にも好かれ、親の評判も良い。なのに何故かその組の子供達には活気がなく、覇気が感じられない。子供達は強くなれない。何故だろうか。

甘やかしは子供のやる気を失わせる。失敗をさせまいとこと細かく面倒をみてやることがかえって子供を弱くする。失敗の経験こそ次への発展の原動力になる。失敗を恐れず、失敗にくじけない子どもに育てなければならない。人間が鍛えられ発展するのは挫折してひとりで悩み

苦しみ、それを乗り越えた時である。

現在のように激動する時代では、子供達の将来にどんなに激しい生活条件やむごい社会情勢の変動があるかも知れない。こんな時子供達がどんな場面に立たせられても、決してくじけず、前向きに明るく生き抜いていく子供達になってもらいたい。

(5) 意欲のある教師になってほしい。

先生方は、それぞれの園で勤務の量や時間に不服があるかも知れない。私立幼稚園の経営は大変苦しく、まわりに対しても最も弱い存在である。その中で園長は教育に対する強い信念と経営の板ばさみでひとり苦しみあがいているというのが、どの幼稚園の園長も同じである。まして新設園では莫大な借財に苦しんでいる。

どうか各園長の心情を汲みとり、是非協力してほしい。各園の園長もまた互に話し合っ、少しでも先生方の為に考えたい。

日々を不満の中で過ごすことは、本人にとっても、また子供達にもよくないことは当然。子供達の明るい未来のため、日々意欲をもった前向きの教師であってほしい。

2 教材について

幼稚園では各領域別の主目標があって、その目標によって指導計画がたてられ、その計画にそって最も効果的な教材が選定されるということになる訳だが、多くの幼稚園の場合、大昔からの教材をあまり工夫もされず、疑問も持たず与えられているように思う。それとはまた正反対に、時流に乗った新しい教材を系統性も、将来の展望もなく与え、教師だけがいかにも新しい教育を行っているような錯覚に陥っているような場合も見られる。

先生方の中には、何の為の教材か理解もなく、どのようにしたら効果的かの研究もなく、ただ漫然と習慣的に与えている人もいる。

鈴木メソッドの幼稚園では、感覚の訓練を色々な「あそび」の中で、知らず知らずのうちに育てようと試みているが、満足する状態には未だなっていない。次はその一例である。

教材例

1. 目と耳

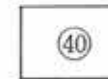
(1) フラッシュカード



◎数のかたまり（3から）、数字
数をかたまりとして瞬間にとらえる。



◎漢字（生活に密着したものから）
文字を形としてとらえ、字画の複雑なものの方が覚え易い。



◎記号（街で目につきやすいものから）

交通標識・国旗・地図

注意 ゆっくりするよりもある速さの方が良く覚える。集中力が乱れるまで続けてはいけない。

(2) くらべっこ（比較観察）

◎多い、同じ、少ない } 2枚のフラッシュカード
長い、同じ、短い

◎まちがいさがし
2枚のカードの絵のちがうところ

◎カードあわせ
トランプの神経衰弱あそびと同じ

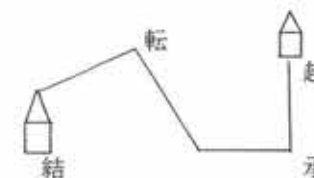
2. 目と手

◎パズル

目の前でカードをいくつか切断してみせ、それを元通りの形にあわせる。古い絵はがき。漢字。アルファベット等々から、裏も表も白紙のカードまで。能力に応じ切断回数をふやしていく。

3. 目と耳と形

(1) 小さな家とお話



- お話の大筋をつかむ。
- お話の要点をしる。
- 順序だてて話す。

(2) 連続して変化していく形の認識と記憶

- 1ヶ月の天気の変化   
- AAABBBCCC. AAABBBCCD. AAABBBCCCE. どこがどう変化したかの発見。

手と触覚

手は人間の外部にあらわれた大脳であるといわれる。手の働きは幼児の大脳の発達に極めて密接な関係をもっている。

(1) 触覚あそび

- 後手に組んで上げた両手に、色々なものを乗せ、見ないであてる遊び。
- 袋の中に、予め見せたものを入れ、命ぜられたものをとり出すあそび。全然見せてない物をさわっただけであてるあそび。

- 目かくしをして、大きなものに触ってあてる。

(2) 紙やぶり競争

- 古新聞4分の一面、よく破れる方向の発見、同じ巾に速く綺麗に破く。交互に破き長く続ける競争。なるべく速く破き、紙一重のところまで止める競争等々、広告の色々な紙での実験。

(3) 折り紙

- きちんと正確にしかも速く折る指先きの訓練のため箱を折る。一辺を3ミリずつ短かくして前の箱に入れ、いくつまで小さく作れるか。

(4) 紐むすび

- 色々な紐の結び方を練習。まむすびから始めて、色々な包装から、命綱の結び方まで。

(5) 線の練習

文字を美しく書く基本練習として線の練習がある。曲線から入って、直線の練習。形あそび一筆がき等。線の練習についてはテキストがある。なお、「幼児・育て方ひとつ」サイマル版を参考にされたい。

(6) 自由な線の模様



- 一点から出て一点へ帰る。●線を交差させない。●一定時間の中に行い、筆をとめない。(10秒~15秒)

色紙に書き、切り抜く。色の対比を考えて他の色紙に貼る。(切り抜いた形と切り抜いた後の形の2つ利用)

5. 紙のお家

この教材は3才児から大人まで、同じ教材で出来上がる程度が違うという混合保育での製作に適した教材。しかも各自の作品をもち寄り町や村を造り、無限の夢を広げ、子供達を夢中にさせることができる。

- 普通市販の九つ切画用紙(中厚)を使った場合。3才児、はさみを使わない。

(1)細長く2つに折る。(2)何回も折り返えし、折目をやわらかにする。(3)折り目にそって破く。(4)1枚で円筒をつくる。(のりづけ。ホッチキス。セロテープ等) (5)他の1枚を先の要領で細長くではなく2等分する。(6)2等分した1枚を2つに1回折り屋根にする。(7)屋根瓦をかく。(8)先に出来た円筒をのりづけした部分から2つに押しつぶす。(9)開いてもう一度別の部分(家の横と縦)から押しつぶして立方体の箱にする。(10)箱の上下四隅の折り目に一握ほど切口を入れ(先生が切ってやる)、外に折る。(11)玄関・窓・腰板等々をかく。(12)屋根をのせ接着する(のり・テープ・接着剤等)。(13)もう1枚の残った画用紙に片寄せて家を貼る。(14)花畑・池・敷石等をかく。以上で三才児の家が出来上がるが、年令に応じ能力に応じ、煙突・屋根・樹木等々から室内のインテリア・家具まで巾広く製作の場を拡げることができる。また用紙を半分、四半分と小さく、又は大きくしたり、2階屋・商店・ビル・学校等々発展することができる。紙の人形を切り抜いて飾

ると一層夢は広がる。

時間がないのでこれぐらいにするが、目を開けばもっとよい教材が自分達の周囲にいくらでもあるし、同じ教材でも工夫すればもっと効果的に使える。市販のカタログを捜すより、日常生活の中から自分で工夫して作り出してほしい。手造りの教材、それが一番。先生の血が通っているからである。



三 鈴木メソッドの魅力について

＝ パネルディスカッション ＝

テーマ 「あなたは鈴木メソッドの何処に魅力を

感じますか」

高 砂（保育経験6カ月）研修中にも、田中茂樹先生の講演を聞き、「幼児の能力は生まれつきではない」事、「学習は教師からではなく、子どもの方より出てくる。」事等、鈴木メソッドについて勉強したが、その他に漠然としていて判らない事も多く「魅力」を自分自身でつかめていない。これから勉強をし、「鈴木メソッド」について、又、魅力が判るように、保育にあたりたいと思う。大和田（保育経験4年6カ月）鈴木鎮一先生の著書を読み、「生まれつきの優劣など無い。環境の優劣だ。」という言葉に出合い心に光がともったような気持ちになった。反面、保育者、親として、子どもにとってのより良い環境を作ってきたらどうか考え反省した。又、鈴木先生の「バイオリンの指導方法を毎日考案し、違った角度より指導している。」お話しを聞き、あのベテランの先生でさえ、毎日どのように子どもを育てたらよいかと、指導方法を現在も研究し、それがつきない、ということに、深く敬服した。毎日の中で、やはりより良い環境づくりに終りはなく、常に教師自身も研究しつつめなくてはならない事、それが、保育・子育て全てに言えるということを感じ、現在は、鈴木メソッドについて、より良く深く知りたいという気持ちでいる。「環境の優劣だ。」という事に励まされ保育している。

高 野（保育経験2年6カ月）鈴木鎮一先生の著書を読み、大変勉強になったが、自分でいざ保育にあたり、自分でどう消化していくかと考えると、まだ暗中模索の状態である。その著書の中の「子どもが喜んで知らず知らず覚え、能力を獲得する教育こそ最良で、どの能力も言葉の捨得の様な方法で教育すべきである。」等から、鈴木メソッドにつき判ったが、実際指導に立つと、子どもに求めるものが多すぎたり、すぐ優劣をつけてしまう事もあり、反省する事がある。自分自身の改善ということが必要であると感じる。

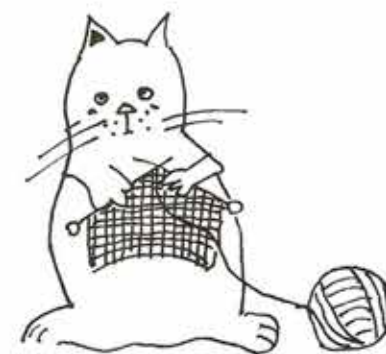
野 呂（保育経験2年目）鈴木メソッドの魅力と言われても、まだよくわからないが、子どもと接してみて、田中茂樹先生がおっしゃった「ことばが多過ぎる」等という事が多いので、いろいろと勉強していきたいと思う。

中 田（保育経験3年目）今迄保育にたずさわるなかで、レディネスとは全く反対の考えである早期教育が本当に大切な事とわかってきた。そして「親や先生が反省する事が教育の本当の姿」・「毎日の繰り返しが能力を伸ばす。」・「良い競争心は能力の発達に必要」等の鈴木鎮一先生のお考えに賛同できる。しかし保育していく上での現状は、早期教育さえすれば、基本的な生活習慣をおろそかにしてもよいと早期教育をはき違えている母親や、子どもの良い競争心が親の競争心になり、つめこみ教育に変わってしまう母親が多くなってきているので、まず入園前の母親教育が現在最も大

切な事ではないか。そして先生も常に、もっと反省をし、このような問題が少しでも解決できるようつとめたいと共に、母親や先生が才能教育について話せる場がもっと多くあればいいと思う。

谷内ロイス（鈴木メソッド研究生）鈴木メソッドの魅力を考えてみると、アメリカの教育にないものが2つあり、1つは子どもに対する望みが高い事である。アメリカではレディネスを重んじて、子どもに難かしい事をさせると、かえって障害が起きるのではないかという考えがある為にチャレンジされず、能力が育てられない事がある。しかし才能教育では、無理のない環境の中で楽しみながら能力を育てる事が出来る事に魅力の一つを感じる。もう一つは、アメリカでは子どもの集中力や意欲は高まるものと思われていないが、才能教育では簡単な事から初め、誉める事により自信となり、好きになっていくと自然に集中力や興味がついてくる教育で、そこに素晴らしい魅力を感じる。才能教育は国際的に平和と幸福を広げようとしている運動です。子ども達に国際的理解が深まる教育ができれば、これ程理想的な教育はないと思う。そしてこの研究会が何十年後には各国から集まれるようになれば、とても素晴らしい事だと思う。

臼 井（保育経験6年目）才能教育に何年も携わった人でも終わる事がないといわれ、鈴木先生自身も毎日が勉強であるとおっしゃられてるので私達はまだ卵のからをかぶっている状態ですので、一生懸命勉強しなくてはならない。幼児学園では英語に大変興味を持っている子が多い。何故かという先生の動きや教材にしても、子ども達が楽しめる保育をして下さってるからです。田中先生のおっしゃった「教えたいという事がらを好きにさせていく。」事が大切で、好きになったからこそ意欲的に覚えている。子ども達に教えたい事がらをどうしたら好きにさせるか。それが私達の研究課題である。もう一つは、「教育は決して怒らず、ほめながらやる。」ものなのに、つめこみでレッスンする母親が増えて来ている。母親とはなしをしていかなければいけない。



四、講 演（要 約）

— 生命への尊敬と愛情 —

鈴木 鎮 一

◎ 教育とは生命と生命のふれ合いであり、相手に尊敬と愛情を捧げることである。

ドイツでは最初に出逢った時に、お互に自分の名前をまず名乗りあう習わしがある。ブラームスの友達のハンスオブ・ビュローという人はある日、出会い頭に人とぶち当たりそうになったことがあった。その時相手はいきなり「馬鹿野郎」と怒鳴ったので、ビュローはすかさず「あ、さようですか。私はハンスオブビュローです。」と澄まして答えたということである。

私は若い人の結婚式にはお祝として、「誰の心も傷つけず」と書いた色紙を贈ることにしている。それに付ける言葉として、お二人とも5年間だけ、怒るということをしなないという約束をしてほしい。5年我慢すれば、これからも怒りの感情を制御することができる。

人間は自分から両親に頼んで生まれてきたのではない。大自然の素晴らしい力によって、生命を与えられてこの世に生まれてきたのである。従って死もまた神の思召しであって自分ではどうすることもできないものである。私共は生命に従って感謝をもちながら生きなければならない。

私の家はバイオリン工場を経営していたので、小さい時から朝は5時に起床する習慣になっていた。現在は3時に起床して仕事を始めるが、少しも苦痛ではない。夜は9時半か10時頃には就寝するので、5時間ぐらい眠り、夢をみたことがない。そんなに働くと早く老い込んでしまうというが、私は決して老いを感じたことがない。町内の人が老人クラブに入れとすゝめに来るが決して入らないので、遂に諦めて顧問になってくれというので、顧問だったらなってもよいと返事をした。老いは肉体ではなく精神である。精神は絶対に老いることを知らないし、老いてはならない。

先生方も古い考えをすて、新鮮で愛情のある心に変えると、接している子供たちの心も変わってくる。それは幼児は生命力の反射を感じる鋭い感覚を持っているからである。

私は毎朝お迎えの車が来ると、玄関から門まで石畳の上を歩いて行く。石畳の上にはよく蟻が這っている。それを踏みつぶさないように下を向いて歩いて行く。家内はみっともないからもって胸を張って、シャンとして歩けと言うが、私は蟻が可愛相で平気で踏みつぶすことができない。

一茶の俳句にも「やれ打つな、蠅が手をする足をする」という句があるが、小さな虫にもそれぞれに立派な生命がある。まして人間の生命に対して、尊敬と愛情を捧げなければならない。それが才能教育の本質である。

生命 — 大きな木でも同じで、あの木の生命が何万という葉を芽吹き成長させていく。人間の赤ちゃんも、お母さんのおっぱいだけで、みるみる大きく育っていくのはすばらしい。あれを驚かないということとはあり得ない。

外側の刺激を受けたとき、生命はどんなことをするのか。毎日いいことを繰り返せば、いいこ

とがそのまま身についていく。身につくとは、皆さんの右手と左手をみればよくわかる。毎日せっせと使ったので右手の能力はこんなに高く、左手は使わなかったので、こんなにもぎこちない。

個性という言葉がある。個性というものを生れつきその人の持っている独特な性質と考えている人があるが、個性というものは生れつきではなく、生れた後の環境や教育によって作られたものである。

猿には生れつき右きゝ左きゝがあるのかを調べるため、上野動物園へ出かけた。朝から昼まで45、6匹の猿を一匹ずつ細かく観察した。その結果、猿には右きゝも左きゝもなく両きゝであることがわかった。

裁縫の運針を右でも左でも出来る婦人に、それを実際に見せてもらったことがある。最初右手で、それは正確な機械のように、糸の長さも時間も同じように運ばれていく。やがて右手が疲れると、今度は左手で、全く右手と同じように糸の長さ、同じ速さでみごとに運ばれていく。

総ての能力は、繰りかえされ訓練された方向に育つものである。

また能力となるには、知っているだけでは何もならない。現在の学校教育は教え、知識をつめ込むだけで、育てることをしない。教えて、それをどれだけ覚えられたかをテストして、頭が悪いとか、良いとかを決めつけてしまっている。

アメリカのイリノイ州の知事からスズキデーという日を新しく設定したという知らせを受けた。それは毎年10月3日を次のことを記念する日とするということである。

- 一つ能力は生れつきではないことが発見された日
- 一つどの子も育つ教育法が発見された日

イリノイ州 議会が10月3日を記念の日とすることを全員一致で決定し、その日に記念の行事が行なわれるということである。

この記念の日が、世の中を変えよう、我が子を立派な子に育てようと誓える日として、世界中の人々が認識してもらえたら大変うれしく思う。

バッハのドッペルコンチェルト（音楽学校卒業演奏曲目）を4、5才の子供達が平気で弾く能力を持っている。こんな高い能力を持つことが出来る幼児を尊敬してあげねばならない。

あなた方は始めて赤ちゃんが言葉を発声した時、その不完全さをなじり叱りとばすだろうか。口のあけ方が小さいとか、半音低いとか小言をいって叱るだろうか。

みんな大喜びで、赤ちゃんに語りかけていく筈である。このようにして赤ちゃんの言葉は飛躍的に増加していくのである。

もし子供達が停滞し、落伍していくようなことがあったら、それは問題が子供達にあるのではなく、大人側にあることを知らなければならない。

五、意見発表

◎ 鈴木先生の愛に生きるを読んで素晴らしい教育法だと思っていたが、現実になかなか分かって来なかったが、今回鈴木先生・田中先生や白百合の先生方のお話で「あゝこうなんだなあ」と少しずつ分かって来たように思います。いつも大きな声を張りあげて保育してきましたが、今度帰ったら子供達が驚くような優しい先生になろうと決心しました。鈴木先生の講演からは人間として、もっと自分が何をなすべきかという基本的なことを教えていただきました。これから帰って子供達と一生懸命にやりたいと思います。地元の先生方大変御世話様になりました。本当に有難うございました。(松下 教子)

◎ まず第一に自分たちの毎日の保育を深く反省させられました。私自身もこの九月に入ったばかりですので、鈴木メソッドについては赤ちゃんみたいなものです。今までも経験不足、勉強不足でいつもこんなんでいいのかなあと感じていましたが、今回この研究会に参加して、子供達ばかり叱っていたのが、子供達より自分の方が悪かったのだと思い知らされました。特に印象が強かったのは、鈴木先生のお話の中で、教育は生命と生命のふれ合いの中で行なわれるということでした。今回の第一回の研修会を足がかりとして、今後更に研修の場を拡げてほしいし、縦・横のつながりや、共通の教材づくり等の道をあけていただきたいと思います。最後にこの研修会を計画していただいた田中先生をはじめ、地元の先生方に心より厚く御礼を申し上げます。

(加藤 千秋)

◎ 私は先生になって、こうした研究会に参加したのは始めてでした。鈴木先生のお膝元にいながら、全く勉強不足で、才能教育への理解が充分でなかったことを深く反省いたします。今回沢山の先生方にお目にかかれて、親しくお話ができて本当に良かったと思います。今後も是非こうした研究会を続けてほしいと思います。(杉山 文子)

◎ これから自由な発言をいただきます。計画や期日、その他なんでも思った通り自由に発言してください。(司会者)

◎ 研修会の計画は大変良かったと思います。感想としまして、白百合や幼児学園の先生方は田中先生のような方が身近かに居られて大変うらやましく思いました。大変勉強させていただきました。同じ悩みを持った先生方が一緒になって話し合うことが、大変うれしく思いました。本当に有難うございました。

◎ 私は一人で来て大変心細く思っていたのですが、先生方に大変よくしていただいて、本当にうれしく思いました。早く帰って一日も早く先生方と相談してよりよい保育をしなければならないと思いました。年1回、こういう機会を是非続けてほしいものです。本当に来て良かったと思うし、ファイトができました。有難うございました。

◎ 心の籠ったおもてなし、本当に有難うございました。今後頑張って一生懸命やりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

◎ 鈴木先生の教えをよくかみしめて、明日の子供達の為に頑張ります。有難うございました。

◎ 鈴木先生、田中先生から私共の日頃の保育の姿勢のようなものを教えていただいて、本当に有難く思いました。この3日間は本当に短かく感じました。

◎ 自分の日頃の保育に対して、子供達に本当に申し訳ないことをしてきたと反省ばかりが頭に浮びました。自分では一生懸命やってきた心算でも、本当はわかっていたんだなあと思うことばかりでした。

△その他同意見が多かった。期日は運動会と重なることが多いが変更できないか。途中リトミックのような身体を使う講習を入れたらもっと楽しくならないか等の意見も出た。



***** 研修会記録のまとめを終わって *****

遠方よりこの研集会に参加していただいた先生方、また、園の行事その他をさしくり、また高額な費用を負担してまで先生方を参加させてくださった園長先生方に厚くお礼申し上げます。

参加された先生方は、大変熱心に積極的に研修されました。主催者としてこんなうれしいことはありません。

3泊4日の短い期間ではあったが、和気藹々の楽しい研修会であったし、また、参加者の意見発表にもあったように、鈴木先生の温顔にふれ、才能教育の本質を拝聴出来たのはこの研修会の大きな収穫だったと思います。

来年度も、もう一度松本でこのような研修会をもちたいと思っていますので、年度当初の計画の中に組み込んでいただきたいと思います。

費用がないので、こんな要約的な記録になって申し訳ありません。読んでいただいてあの日を思い出して、「尻たゝき板」と共に改めて一層の奮起をお願いします。

寒さに向う折、健康に注意され益々御元気で日々の保育に精進して下さい。

1983年11月

(田中 記)



鈴木メソッド幼稚園研修会参加者名

S 58.10.11~14

	参 加 園	番号	氏 名
一 般 参 加	光が丘幼稚園 〒880 03 宮崎県佐土原町下那珂平廻 4750~359 09857-3-6162	1	船 田 美智子
		2	戸 敷 亮 子
		3	浜 砂 圭 子
		4	松 下 敦 子
	湘南才能教育幼児学園 〒251 藤沢市 沼石上3-2-3 0466-27-3411	5	岡 本 重 子
		6	大和田 敬 子
	白百合幼児舎 〒960 福島市八木田並柳 141	7	
		8	高 野 敬 子
	東京メネス才能教育幼児学園 〒157 東京都世田谷区南烏山 4-16-16 03-300-1673	9	野 呂 晶 子
		10	加 藤 千 秋
	松本幼児学園 〒390 松本市深志 3-10-15 0263-35-4890	11	西 牧 伸 子
		12	白 井 千 恵
		13	杉 山 文 子
	白百合幼稚園 〒399 65 松本市芳川村井町 1383、ロ 0263-86-1084	14	内 川 良 子
		15	中 田 登 志 子
		16	高 田 演 子
		17	上 條 佳 志 子
		18	中 村 由 子
特 別 参 加	〒150 東京都渋谷区代官山町 20-9 森ビル代官山Kビル 幼児開発代官山教室	19	田 中 憲 子
	〒176 東京都練馬区桜台 1-8 ニュウ桜台ビル 幼児開発桜台教室	20	寺 沢 幸 江
主 催 者	〒390 松本市里山辺 4179-1 小岩井アパート ハーバード大学 大学院学生	21	谷 内 ロイス
	宮崎 光が丘幼稚園園長	22	下 笠 奉 典
	〒390 松本市深志 3-10-15 0263-35-4878 鈴木メソッド研究所	23	田 中 茂 樹